

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年5月6日現在

機関番号：32689

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2010～2012

課題番号：22530137

研究課題名（和文） 『マキャベリの知能』と紛争の実証研究

研究課題名（英文） The Empirical Studies of "Machiavellian Intelligence" and Conflicts

研究代表者

森川 友義（MORIKAWA TOMONORI）

早稲田大学・国際教養学院・教授

研究者番号：60329159

研究成果の概要（和文）： 集団間あるいは国家間における、紛争・テロリズム（特に自爆テロ）といった生命の危険を有する状況で、『マキャベリの知能』に基づく意思決定がどのように行われるかについて仮説を提供し、データを用いて検証を実施した。

研究成果の概要（英文）： Based on the Machiavellian Intelligence hypothesis, I have conducted empirical research on what conditions and what kind of decision-making mechanism the government officials and the people are willing to sacrifice their lives for the benefit of the whole at the time of national crises.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	600,000	180,000	780,000
2011年度	600,000	180,000	780,000
2012年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総計	1,700,000	510,000	2,210,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：政治学

キーワード：テロリズム、進化政治学

1. 研究開始当初の背景

(1) 2010年以前の萌芽研究では2人の囚人のジレンマを用いて政治脳の進化過程を分析し、その分析結果は既に米国政治学会誌、英国政治学会誌等に論文として出版した。

第二段階の基盤研究Cでは「意思決定の重層」を集団的意思決定過程であるN人の囚人のジレンマ、ゼロ・サム・ゲームといった非協力ゲーム、更には政治知識の有無と意思決定等に応用して政治脳の進化過程をコンピ

ュータ・シミュレーションによって明らかにしたところ、本領域は、第三段階として『マキャベリの知能』に関して、実際の集団間あるいは国家間の紛争、さらには自爆テロを含むテロリズムに関するデータに基づいて仮説を構築し、実証研究を行った。

2. 研究の目的

(1) 戦争、紛争、テロリズムといった、長い間政治学が扱ってきた重要な研究テーマに

対して、進化論といった従来の政治学的手法とは異なるアプローチから取り組むものであり、政治学の実践的領域に重要な仮説を提示することを目的とした。

(2)また、「進化政治学」という政治学における新たな分野について米国政治学会では認知されつつあるものの、わが国では文献がほとんど存在しないことから、本研究において一般読者に分かりやすい形で啓蒙に努めた。

3. 研究の方法

(1) 1945年以降において神風特攻隊員が残した遺書、手紙、詩歌等の600あまりのコンテンツ分析を実施。データはエクセルにデータベース化した。コーディングは3人が実施して、コーディングのエラー、差違をゼロにした。

(2)「進化政治学」の分野では、書籍を出版する形で普及することにした。

4. 研究成果

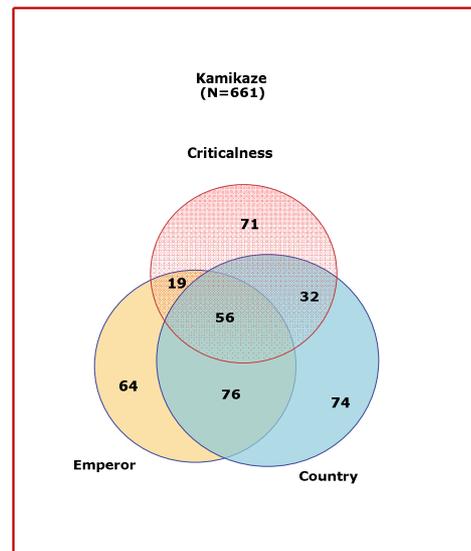
(1)『マキャベリの知能』（または「政治脳」、「社会脳」）とは、人間関係において自己利益を追求し、その結果生存競争に勝つための能力であり、例えば自分を実力以上に見せ相手を威嚇する能力（及びその威嚇を見抜く能力）、嘘をつく能力（及びその嘘を見抜く能力、更には嘘を見抜かれた後再び上手な嘘をつく能力）、誰を信頼すべきかという選択・洞察力（及びその信頼又は不信を予見し行動をとる能力）等である。

本来ならば、マキャベリの知能と自己犠牲とは相容れない関係にあると考えられるものであるが、自身が行ったコンピュータ・シミュレーションによる研究結果から、両者がむしろ補完しあう関係であることが分かっている。つまりマキャベリの知能が発達する過

程において、相手のうそを見抜く能力がうそをつく能力を上回るという条件等が整えば、人間は血縁関係がない相手に対しても、自己犠牲が可能な動物であることが確かめられた。これは、N人で構成する囚人のジレンマあるいは公共財といった状況において、協力関係を築きあうことができることを示唆している点で重要である。

(2) 本研究の重要なテーマは太平洋戦争における自己犠牲の可能性の研究が一つの大きなテーマであったが、確かに危機的状況では集団のために自分の生命を犠牲にできる可能性が高いことを示唆する仮説が提示できることが分かり、一つの論文としてまとめることができた。

(3) 最も自己犠牲を払った例として太平洋戦争終盤の特攻隊が挙げられるが、661のデータをコンテンツ分析した結果、以下のように、特攻隊員は「天皇」、「日本国」、「特攻が戦果にもたらす影響」の3つを重要視していることが分かった。（なお、特攻隊が強要されたという歴史認識は間違いである。）



このことから、帰納的に考察すると、特攻隊員の自己犠牲アルゴリズムとしては、以下が

考えられると提案した。

IF [my kinship group is under dire threat from a powerful aggressor],

AND IF [my death is a necessary cost of mitigating that threat],

THEN [emotions and other mechanisms supporting a willingness to accept that death].

この条件を満たす例が1944年～1945年に行われた特攻隊の編成と実行であったと考えることができる。

(4)政治学を学ぶ人々に対して、「進化政治学」の重要性を強調する目的で、意志決定理論と進化政治学の接点を解説する書籍を上梓した。

「進化政治学」とは、1980年代に米国政治学界において萌芽し、その後、徐々に発展しつつある政治学の一分野で、英語表記では「Neuro-politics」・「Biopolitics」（『政治と生命科学の学会』）、「Evolutionary approaches to political psychology」（Sidanius & Kurzban, 2003年）、「Evolutionary Theory of Political Behavior」（Alford and Hibbing、2004年）、「Sociogenomics」（Carmen, 2006年）といった形で学者によってさまざまに表現されているが、進化論的な考え方を根本的に内在させているという点では一致している。

進化政治学のアプローチとは、政治学が扱う変数あるいはテーマに対して、進化論的な考え方を適用し、現在の政治的な現象のルーツ（遺伝子を含む）はどこにあるのかを究明しながら、仮説の構築・検証を行うものであるところ、このアプローチの前提となっている点は次の3つである。

- ① ヒトの遺伝子は突然変異を通じた進化によってもたらされたもので、かかる遺伝子は政治分野の意思決定過程において影響を与えている。

- ② 限られた資源である食料と異性を獲得することは人間の根源的欲求であり、その欲求にかかわる問題一つ一つを解決するために自然選択と性選択を通じて脳が進化した。

- ③ 現在のヒトの遺伝子は、少なくとも最後の氷河期を経験した遺伝子とほとんど変わっていないという事実に基づき、現在の政治現象は、狩猟採集時代の行動形態から説明されなければならない。

現時点での政治学における意思決定分析は経済学的合理性を前提として議論する観点が有力であり、個人の先天性と個人を取り巻く環境は未分化のまま（たとえば両親からの影響として）議論されているが、進化政治学は、これを分化させることによって分析していくという意義を持つ。特定の政治制度内外における政治行動を遺伝的変数から検証できるという意味で、政治学のさまざまな分野のテーマを、先天的要因を基軸として、問い直すことが可能であり、今後、本研究のようなテロリズムのメカニズムの他にも、政治および周辺の学問の分野で、意志決定が行われるものすべてに応用が可能であるはずである。

少なくともわが国の政治学はこの新しい分野の可能性について検証を進めるべきである。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計1件）

Tomonori Morikawa and John M. Orbell. “An Evolutionary Account of Suicide Attacks: The Kamikaze Case.” *Political Psychology*. 2011, 32, 2, 297~322.

〔図書〕（計 1 件）

森川友義著。2012 年。『生き延びるための政治学』。弘文堂。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

森川 友義 (Morikawa, Tomonori)

研究者番号：60329159